

OB会報

会長就任のご挨拶

OB会会長 45回生 横山 雅行



昨年急逝された小泉前会長の跡を継ぎ、急遽サッカー部OB会会長を仰せつかりました45回生の横山でございます。

百周年記念行事等が無事に終わりやれやれと思っていたところへの訃報。

バタバタしている中での就任ですので皆様のお役に立つか心配ですが、出来る限り頑張らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

就任早々7月には鈴木中先生がご逝去されました。

10年前の会報に書かせていただきましたが、高校入学後にサッカーを始めた私。

中さんに叱責され続けたへボがまさかOB会会長になるとは先生もびっくりだったのでは。その辺りを米寿のお祝いでじっくりお酒でも飲みながらお聞きしたかった。今となっては出来ないこと、本当に残念です。心からご冥福をお祈りいたします。

OB会では現役にいいグランド環境の提供を目標にしてきました。公立校でもあるのでなかなか思うようには進んでいませんが、今後も継続して検討していきます。

また公立校では珍しいスペイン遠征の支援も当然

継続していきます。本当に貴重な経験となり、サッカーだけでなくこれからの人生にきっと役立つはずです。そのためにも今後とも全力で支援していく所存です。

そして皆の夢である選手権に出場してもらいましょう。

これからもOBの皆様にはお願いすること多々あるとは思いますが、よろしくお願いいたします。

超OBが現役を応援して

26回生 鈴木 美暢

この歳の超OBで現役の試合の応援に繁く訪れるのは稀とのことで、投稿を望まれたことは意外なことでした。在学中も卒業後も、母校や部への貢献は何もできなかった我が身でしたので。

私の湘南中学入学は終戦の四か月半前、昭和二十年四月で、蹴球部に入ったのは終戦後暫く後のことでした。戦後社会の窮乏の中で、入部したものの道具は無く、しかも腎炎を発症したため、部活動を中止せざるを得ませんでした。以後在学中は蹴球とは縁遠いものになって、そのことが社会に出てから再開したサッカーとの触れ合いの中で、まことに残念な思いとして残っていました。それに駆られてか、後輩の活動を見つつ、去りし若き日のわが身をそれに重ねて過ぎ去った日との再会を幻想しているのが、この歳までグランドに駆け付ける理由です。

幸いにも弊屋は母校に近く、自転車で7,8分、機会さえあれば何時でも駆け付けるつもりでいます。が、寄る年波に早起きが苦手になり、寒い朝9時キックオフには殊に難しく、機会を逃がし残念な思いで

す。遠方の場合でも、老体を動かすことが健康には必須と、自らを励ましつつ、二時間以内の範囲であれば行くことにしています。

一軍の試合には出来るだけ行って見えています。一軍現役の試合は相手とのランク差から勝敗が殆ど決まってしまうので、とは言え何が起こるか分からないのがサッカーと大いに期待を込めての、あわよくば、かつての全国制覇を念頭に置きつつの、参観応援（ただ見ているだけの）です。これに続く二軍、三軍については、来年、再来年はどのようになるのであろうかと、予見しつつ楽しんでます。この場合は勝敗よりも、メンバー各人の基礎動作を観察しています。

試合ごとの感想は老翁の陳腐な私見として僭越であり、直接にも間接にも本人らや、監督、コーチの方々に伝えることは出来ませんので、我が胸に納めています。ただ、全体として気になるのは、サイドキックパスが弱く、浮き球が多いこと、ボールが来るのを待っていること、予測しての或は期待しての（無駄とも思える）動きとポジショニングが足りないこと、最後まで相手と競り合う姿が見えないこと、等々。

コロナ禍の時ほど厳しくはありませんが、応援参観に規制のあるところがあり、些か不愉快な思いを持っています。公表しておいて下さい。

私立校での人工芝のピッチは素晴らしく、完備している所が増えてきています。この環境で研修できるプレイヤーは恵まれていて、土のピッチとは技能的に格差がでるであろうと推測しています。諸大会で公立校が上位に行けないのはそのような環境もあるのでしょうか。公立では人工芝ピッチは望めないのでしょうか。

この後輩の中から傑出したプレイヤーの現れることを願いつつ、又、今後はサッカーに直接関係のない社会に入るであろう、他の大部分の部員には、そこに身を置いてもサッカーに魅入られた人生を楽しんで貰いたいと祈りつつ、炎熱の日も、厳寒の朝も、ゴールインの歓喜に酔っています。

皆、技能、体力に夫々の個性を持って、ベストプレイヤーを目指していると思います。在学中の二年半、練習と試合の限られた時間を稠密に利用して頂

きたい。監督、コーチの方々の厳しくも暖かいご指導と、マネジャーの一途な支えとには、ただただ感謝の念を禁じ得ません。



今年度からはコロナ5類への移行により県外大会の開催参加等、ほぼ全ての活動がコロナ前に戻りました。

1. O-70 の活動

神奈川シニアリーグ KSSL は丹沢と栄光がそれぞれ O-70 でチームを編成出来るようになり新規加盟し、9 チームでのリーグ戦になり、JFA 全国大会予選リーグ JFAL については横須賀とデ・フェールの2チームが加わり10チームでの裏表2回対戦のリーグ戦となりました。今後とも毎年数チームずつ増加していずれは2部編成になって行くことが予想されます。

10月下旬時点の戦績はKSSLが3勝3敗2分、得点5失点5、勝点11で4位、JFALは1勝6敗5分、得点3失点15、勝点8で9位と昨年度と比べて低迷しています。

要因としてはペガサスで活躍していた栄光のメンバーが新チーム結成により移籍、また中心選手が他チームへ移籍など、構成メンバーが大きく変わった事があります。

相変わらず得点力に難があり、両リーグで1位の茅ヶ崎は合計49点、それに対してペガサスは8点ですから、その力の差は歴然としています。

残された、トーナメント大会でベストを尽くし上位を目指して行きたいと思います。

毎週火曜日に馬入人工芝で開催されている交流戦については75歳未満と75歳以上に分けて午前午後に分けて、それぞれ来場したメンバーをランダムに分けてチーム編成しゲームを楽しんでいます。交流戦への参加者は圧倒的に茅ヶ崎のメンバーが多

く、火曜日に交流会、そして木曜日に公式戦という流れでコンディションを整えて試合に臨んで来ます。ペガサスは O-70、O-75 合わせて 10 人程度ですからこの辺りから意識を変えて行かないと上位浮上は難しいと感じています。

2. O-75 の活動

今年度からスーパーロイヤルリーグが正式に始まりました。このリーグは O-70 の公式試合に不参加または出場時間が少ない方と 75 歳以上の方がサッカーを生涯スポーツとして続け試合を楽しむことを目的としてスタートしました。毎月第一金曜日、第三金曜日に馬入人工芝で 1 試合 30 分 (15 分ハーフ) を 2 試合実施しています。

このリーグ戦は湘南ペガサス単独チームではなく、交流会全体で 4 チームを編成しそのチームの対抗戦です。チーム編成については、湘南ペガサス、茅ヶ崎、足柄、ウエスト、イースト、シュテルンの各 6 チームからチームの戦力が均一になるように人選しています。チームの一体感を得るべく、各チームで監督、世話人などを決めて、試合前のウォームアップなどもチーム単位で行っております。4 月の開幕当初は慣れないチームで参加者が少ないなどがありましたが、現在では参加者も少しずつ増えてきていますので、徐々に軌道に乗りつつあります。

近い将来、O-75 のメンバーが増えて単独チームでのリーグ戦へ移行して行く事を願っております。

トーラス60 活動報告

49回生 元松 経男

西田前代表から年度初めの直前に突然代表を引き継ぎました元松です。

今年のトーラスはペガサス60から9名が移籍加入して、総勢30名の大所帯でシーズンが始まりました。

主戦場である神奈川シニアリーグ(KSSL)は3チームが新規加入し、我々の2部は14チームとなり試合数も増加しました。

メンバーの内12名はペガサス70との二重登録で活動しています。また、県協会主催の全国シニア予選リーグにはペガサス60や他のチームに登録して参加している方も17名いました。この他、KSSL有志が平日に主催するO-70交流会やO-65交流会に自由参加する方も増えており、中には毎週3日以上ボールを蹴っている方もいるようでした。

そんなトーラスの今年の目標は、よく走り声を掛け合って全員出場で楽しくゲームに勝ち切ることでした。

ペガサス60から65歳以上が分かれてトーラスとなって5年。相手は全て60歳台前半の若手が中心のチームで、未だ低迷を続けるチームですが、何とか勝ち点を積み上げたいと、全員がサッカーをする時間を増やして走りこんでいたようです。

KSSLリーグは4月1日から始まりましたが、10月28日の最終戦まで参加者は毎回20名前後で、菅浦監督はリズムが変わることの無いようなゲームプランを立てるのにずいぶんと苦慮したことでしょう。

こうした各人の努力と監督のベンチワークの苦心と佐久間ゲームキャプテンの確たるキャプテンシーの結果、なんと5勝3分5敗の勝点18。得点7、失点10、得失点差-3と、堂々の戦績でリーグ戦を終了しました。現時点では他チームの残り試合があるため最終順位は確定していませんが、14チーム中の中位を確保し、トーラス始まって以来の戦績となりました。

今年の好成績はセンターラインの固定化とディフェンスラインの安定化で、大量失点による敗戦が激減したことによるものと思います。どの試合も1点を争う好ゲームで、最後まで勝ちを諦めない姿勢で臨めたことが、これまでにないシーズンを通して高いモチベーションに繋がったのではないのでしょうか。

それと同時に、試合後のコミュニケーションを取ることも忘れず、場所を移してのサッカー談義の回数も増え、チームの皆さんもサッカー人生が益々楽しくなったのではないのでしょうか。

来年度のシーズンの課題ははっきりとしています。ディフェンスの次はビルトアップからの得点力の増強です。よく走った後は、全員で点を取りに行きましょう。

ということで、点を取れる新人の発掘補強が私たちの宿題となりました。

とはいっても、まだシーズンは続いており、後半戦は県議長杯のトーナメントです。

2部ばかりではなく1部のチームにも勝たないと先へは進めませんが、何とか全員サッカーで上を目指したいと思います。リーグ戦でトップを走るチームから唯一勝利しているトラスです。勝機はいつもそこにあるのですから。

さて、トラスではKSSLの公式試合以外にも、ペガサス60 或いはペガサス70と合同で、他県の招待試合にも参加しています。清水や那須、千葉へは一泊2日の遠征も毎年の恒例となっています。

しばらくサッカーから遠ざかっている湘南サッカー部OBの皆さん、生活の時間に余裕ができたなら今一度ボールと一緒に蹴りませんか。何歳になっても同世代の旧友たちとサッカーを楽しめますよ。

湘南ペガサス60 KSSL 活動報告(2023シーズン)

監督 齋藤 譲

ペガサス60の監督を引き受けて2023年シーズンを迎えた。年齢によるメンバーの自動入れ替えで主力がごそと抜けた一方で、新しい戦力が加わり新生ペガサスとしてスタート。新チームになってから練習試合もなく、準備がまったくできない状況。コロナ禍で前年度の日程が3月まで食い込んだためとはいえ、不安でいっぱいだった。

KSSLの最初のうちは試行錯誤を覚悟したが、試合によって選手層が薄くなるポジションが生じて、不慣れな位置でのプレーをお願いすることも。もちろん不安な要素もあったが、複数のポジションをやることによってプレーに幅が出たり、ポジショニングが改善されたりしたメリットもあったように思う。黒星スタートのあと引き分けが続き、初勝利は4試合目の横浜シニア戦まで待たなければならなかったが、攻撃がかみ合い5対1の快勝。ようやく攻撃の形が見えて

きた試合だった。しかしメンバーが揃わないなど再び勝利が遠い試合が続く。勝ちきれなかった川崎戦のあと、旭戦ではディフェンス面でチーム一丸となり2勝目。そして残留争い対決となった最後の2試合はいわば背水の陣。赤羽根戦は白星を逃す引き分けだったが、丹沢戦では気持ちのこもった戦いで快勝。消化試合が他のチームより多く、他力本願だったが1週間後に残留確定の朗報が届いた。

最終成績は3勝4分け4敗の勝ち点13で8位。正直言って勝率5割はクリアしたかったが、甘くはなかった。また得点13に対して失点は15。あと2〜3点は奪えていたし、つまらないミスで失った点も少なくなかった。この点が改善できれば、上位で戦える力はあると思う。ペガサスのいい時は、前からのプレスと後ろからの押し上げが機能。ディフェンスの意識が高く攻守の切り替えがスムーズな時は、いい結果につながっていた。毎試合同じメンバーで戦えるわけではなく、誰が出てもこの姿勢が保てるのが鍵になる。

リーグ終盤になってようやく戦う形が見えてきたが、収穫をいくつか挙げたい。ディフェンスラインからの楔の縦パスが入るようになったこと。孤立を作らず必ずフォローする動きが生まれたこと。周りでボールを要求する声が増えたこと。シュートを積極的に打つこと…など。そして何より、試合前や試合中でも、「こうしたほうがいい」などとポジションや組み立てに関して意見を出し合うことが増え、非常に心強かった。逆に課題としては、攻め上がりのタイミング、攻め急ぎを避け組み立て直す判断、クロスの精度とゴール前への進入、ディフェンスの裏の防御、両サイドの守備、GKの飛び出しとDFの連係など。

こうした成果と課題を洗い出して、次のシーズンに生かすようにしてほしい。また一から始めるのではなく、継続が重要だ。チームとして成長することによって、サッカーがもっと面白くなると信じている。

最後に付け加えておきたいこと、それは試合前の準備について。アップをしっかりとやるのが特にシニアの年代では重要だと痛感した。移動を伴っての朝一番の試合、猛暑の夏場などコンディションはさまざま

ま。準備運動を十分にこなすことで怪我を防ぎ、キックオフ直後から100%でプレーできる。ボールを「ちゃんと止める」「しっかり蹴る」という基本動作をおろそかにせず、顔をあげてプレーすることを練習から実践することを勧めたい。毎試合前の準備運動に協力してくれた固有メンバーに感謝だ。

勝負がかかったサッカーだけでなく、結果二の次のエンジョイサッカーもシニアの良さ。遠征や交流大会への参加のチャンスに期待しつつ、ここでエールを。Viva ペガサス! Viva サッカーライフ!

ペガサス50活動報告

樫 茂樹

ペガサス50ではKSSL(神奈川県シニアサッカーリーグ)50雀3部と全国シニア選手権予選O-50神奈川リーグの2つのリーグに所属しています。全国シニアはペガサス60から助っ人参加して頂くこともあります。KSSLの方は50代であることが参加資格であり、今年度は24名の登録メンバーで活動しています。

私は湘南高校OBではありませんが、現ペガサス60で活躍されている藤原さんが逗子市の少年サッカーのコーチをされていた時に声をかけて頂き、ペガサス50に加入。今年度は全国シニアの監督を務めさせて頂いています。

まずは2023年度シーズンの成績から報告します。全国シニアの方は現時点で2試合しか消化していませんので成績報告は割愛させて頂きますが、KSSLの方は全日程が終了しています。

KSSL50雀3部は9チームの総当たり戦でしたが、4勝1分3敗(得点21、失点11)の暫定4位で順位決定リーグへ。順位決定リーグでは1勝1敗で最終順位もそのまま4位という結果でした。昨年度も同じ4位で2部との入替戦進出には僅かに及ばずながら、県議長杯ではベスト4に食い込み、さらに今年度は3名の若手加入があり、2部昇格を期待してい

たところでしたが、少し悔いが残る結果となりました。最終戦は最終順位1位となった鎌倉との対戦でしたが、1-2の惜敗。2部昇格の可能性が残る3位とは勝点差2という結果で、後1歩という戦績にも見えますが、冷静に考えると妥当な結果だったように思います。

山本監督の元、フォーメーション、ポジションはほぼ固定で戦ってきましたので、特に近い距離での連携は昨年度よりもよくなったと実感しています。ただ、日によって、もしくは時間帯によって、良い時と悪い時がはっきり出てしまった1年だったように思います。仕事や家庭の事情、怪我等でメンバーが多少入れ替わるのはどのチームも同じだと思いますので、この好不調の波を抑え、安定した戦いをする事が1つ目の課題ではないかと思えます。2つ目の課題はミドルシュートでの失点が多かったこと。アンラッキーな失点もありましたが、フリーで打たせ過ぎたことは事実かと思えます。バイタルエリアではもっとプレッシャーをかけ、フリーで打たせないという意識がチーム全体的に弱かったように思えます。とはいえ、8試合での総得点21はリーグ1位でしたし、ここ数年の、守備は固いが得点が少なく勝ちきれずに引き分けが多いという雰囲気はなくなったように思えます。今シーズン、残る県議長杯、全国シニア予選で課題を少しでも修正し、勝ち試合を増やしたいと思います。

私はシニアサッカーを始めて5~6年経ちました。色々感じた課題は書きましたが、シニアサッカーは楽しいです。もちろん試合に勝った時、自分なりに満足できるプレイができた時はもちろんですが、お酒を飲みながらサッカー談義をするのも楽しいです。みんなサッカー経験も価値観も違いますし、やりたいサッカーも違いますが、サッカーが好きなことは共通しているのではないのでしょうか。勝っても負けてもそんな仲間とワイワイやれる、このコミュニティはとても貴重だと実感しています。

さて、今シーズン終了後には4名の方が年齢の関係でペガサス50を卒業されます。新メンバー大募集ですので、興味のある方はぜひご連絡ください。

今のペガサス 50 には学生時代にサッカー未経験の方も活躍しています。未経験の方、サッカーからしばらく離れている方、サッカー好きな方、どなたでも大歓迎です。一緒に楽しくワイワイやりましょう。

ペガサス40活動報告

73回生 藤田 英峰

ペガサス 40 の今季の活動報告をさせていただきます。藤田英峰(73 回生)です。今季より、副代表を務めさせていただきます。

ペガサス 40 では、主に土曜開催の全国シニア選手権予選 O-40 神奈川リーグ(以下、土曜リーグ)に「湘南ペガサス 40」単体として、主に日曜開催の神奈川県シニアサッカーリーグ(以下、日曜リーグ)は「藤沢四十雀」と合併し、「湘南藤沢 40」として参加しています。

現在、土曜リーグは 2 部(A,B ブロック各 11 チーム)に所属し、1 部昇格を目標に戦っています。年々チーム数が増加しており、それに伴いリーグのレベルも上昇しています。そのため、昇格という目標が年々難しくなっているのが現状です。今期は初戦からまさかの 6 連敗を喫し、B ブロック 11 チーム中 2 勝 6 敗の 8 位(10 月末日現在)に甘んじています。実力的に僅差ではあるのですが、勝ちきれない、そんな戦いが続いていました。この状況を打破するため、試合当日まで個々での調整が多かった中、チームとして統一した意識をもつため練習会や練習試合を多く組みました。その甲斐があったのか、第 7 戦は大量 10 得点を奪取し、10-0 での快勝となりました。今期初勝利を劇的な勝利で飾り、まだまだこのチームには伸びしろがあると信じ、愚直に基本に立ち返ったところその次の試合も、1 部から降格してきたチーム(3 位)に 1-0 で勝利しました。サッカーは本当に何がおこるか分からないものです。

チームメンバーは湘南 OB のみで構成できることが理想なのかもしれませんが、仕事や家庭の事情か

ら、サッカーから距離を置かざるを得ない人も多く、湘南 OB 以外の友人知人等を勧誘して参加して頂いている状況です。幸いにも、技術だけでなく人間性も優れた方ばかりで、練習、試合とも出席率が高く、自主トレーニングを積極的に行うなどサッカーに対する意識が非常に前向きな人が多く既存メンバーとの融合もスムーズに行われています。

但し、戦術面においては、目標とする 1 部定着レベルになるためには課題があります。守備面ではボールの奪い所の意識の統一が不十分で失点に繋がるケースがあります。また、攻撃面では、前線のポストプレーからサイドへの展開を試みっていますが、狙い通りに行かず逆襲を受けてしまうことも多いです。技術の高い選手は多いので、前線へ放り込むだけの単調なサッカーではなく、DF ラインや中盤での安定した細かいパス回し、思い切ったサイドチェンジ等、緩急をつけたサッカーで、確実に相手の陣形を崩し、フィニッシュまで持っていけるサッカーをしないと 2 部では勝てても 1 部では通用しないと認識しています。

一方、日曜リーグは同じく 2 部での戦いとなり、12 チーム中、6 月までの 8 試合では一時は暫定首位となったものの 9 月からの 3 試合で勝点を伸ばせず結局 5 勝 2 分 4 敗の 5 位で終了となりました。とはいえ合併初年度としてはチームの融合も進み、来季に期待が持てる内容でした。また、合併相手の土曜リーグ 1 部所属「ボンジボーラ藤沢」(23 年シーズンは 3 位!)と友好的な関係を維持させて頂いており、合同練習や練習試合を頻繁に行い、土曜リーグのチーム力向上にもなっています。

今後は来期に向け、引き続き新戦力の募集を続けながら、統一した意識でのプレーのため練習会、練習試合を多く組んでいきたいと考えています。40 歳を超え、青春時代と同じ思いでボールを蹴れる幸せを噛みしめながら、毎試合プレーをさせてもらっています。県リーグの運営の方々、湘南ペガサス、サッカーの神様、すべてに感謝です!!

人生百年時代、もう一度サッカーをやりたいなど少しでも思っている方は、ぜひ一度ご連絡を下さい。

Never Too Late!!(何をすることも遅すぎるとい
ことはない)

トカルチョ湘南 2023年度活動報告

82回生 篠塚 貴志

平素より大変お世話になっております。若手OBチーム、トカルチョ湘南の篠塚です。ここ数年は後輩に運営・報告を任せておりましたが、相変わらず代表に名前を残しつつ試合に出させていただいておりますので、今年は篠塚より活動報告をさせていただきます。

トカルチョは今シーズンも神奈川県社会人リーグ3部(3Bリーグ)に参加しております。10月末時点で「2勝2敗」で残り2試合という状況です。瓜谷・土谷(85回)、幸福(88回)の加入などにより、初戦・2戦目は充実した人数が揃い、幸先よく連勝できました。しかしながら、夏場の2戦は連敗しております。3戦目は昨年度首位のチーム、4戦目は若い年代の選手が揃った新規参入チームが相手であり、いずれの試合も序盤に失点しております。トカルチョの平均年齢が上がる中、より若い相手との夏場の試合で体力・集中力の差が出てしまったこと、それをカバーできるような試合運び・メンバー配置・交代といったチームマネジメントができなかったことが課題であったと感じています。残り2試合は試合序盤の守備を安定させて連勝し、なんとか上位に食い込み昇格戦に進みたいと思います。

また今シーズンも公式戦以外の活動として、県2部のチーム等とシーズン開始前・中盤に練習試合を行い、高い強度の練習ゲームを行いました。個々の技術・運動量の両面で差を見せつけられることになりましたが、昇格に向けた課題を認識できました。また改めてより高いレベルでの試合は楽しいと感じ、昇格への意欲を得る良い機会であったと思います。

現在、85回生～93回生まで概ね各学年のOBに登録者がおり、湘南高校サッカー部のコーチを務

めたメンバーも多くおります。若手OBの皆様は登録している同期などに声をかけていただき、気軽に参加して欲しいと思います。ともに同じグラウンドで練習をした仲間として先輩・後輩の垣根なくコミュニケーションをとり、楽しく試合をしています。今後も継続して若手OBの交流の場で有りたいと思います。幅広い業界の先輩がおりますので就職活動や人脈形成にも役立ててもらえれば幸いです。

長年、良い結果を報告できずしておりますが、ここ数年はチームの一体感が増しておりますので、ぜひ結果につなげて行きたいと思います。今後ともご指導・ご協力のほどよろしくよろしくお願いいたします。

「湘南スプレッド1545の 活動休止と今後について」

79回生 櫻井 大輔

こんにちは。湘南スプレッド代表の櫻井です。湘南スプレッド1545は、2023年、昨シーズンからの選手の引退や移籍等により、遂に関東リーグの参加を断念し、活動休止する決断を致しました。

これまで、1985年生まれの選手を中心にメンバーとして、若手と融合する形でチーム力を維持してきました。関東1部リーグは、日本代表やブラジル代表選手を多数擁する日本一の『東京ヴェルディBS』等が所属する日本1のリーグとなる中、世代交代を実現できず、全国トップクラスのチームと差を埋める展望が開けない中で、大きな決断となりました。

ここで、改めて、湘南スプレッド1545の軌跡を簡単に紹介させていただきます。2008年より湘南高校サッカー部OBを中心に立ち上げたこのチームは、過去、関東大会にて、3位を2度(08、15)、準優勝を3度(10、13、14)、そして、2013年に全国大会3位の結果を残すことが出来ました。日本代表選手もこれまで、合宿に候補として選出された選手を含めて、計4名(内、湘南高校卒3名)を輩出してきました。

日本代表は、2021年にワールドカップ準優勝を成し遂げました。準優勝を果たした日本代表のスタッ

フ、選手達の多くは、リーグ戦が存在しないビーチサッカー黎明期の頃から、地域リーグの創設・運営等を一緒に取り組み、強化・環境整備を進めてきた仲間達でした。その中で、湘南スプレッド 1545 とこれまで所属していた全ての選手達は、日本代表のワールドカップ準優勝という快挙に大きく貢献できたと考えています。

なお、次回のビーチサッカーワールドカップは、ドバイにて、2024 年 2 月 15 日から 25 日の期間で開催されますので、皆様是非チェックをお願いします。

チームは、解散ではなく、活動休止であるため、チームの今後の活動は、残ったメンバーで議論しているところではありますが、一方で、普及活動は続けております。今夏も、鶴沼海岸にて、「第 8 回湘南藤沢ビーチサッカー大会」が開催され、運営に参加し、小学生にビーチサッカーの楽しさを伝えることが出来ました。そして、同会場では、昨年に続き、全国の商工会議所青年部の方々の「第 2 回湘南海岸ビーチサッカー大会藤沢 YEG 杯」も開催されました。ここには、現日本代表の選手兼監督の茂怜羅オズ氏をゲストとして招き、ルール説明やデモンストレーションをしてもらいました。また、2024 年は、本大会が更にパワーアップして、同会場にて、全国大会が開催予定です。更に、2025 年には、前述した「湘南藤沢ビーチサッカー大会」が記念すべき第 10 回大会となります。これらの活動を通じて、湘南のビーチサッカーの普及活動を続けていきたいと思っています。

普及活動の最大の目標は、これまで活動してきた藤沢市の鶴沼海岸に常設コートを作り上げることです。サッカー王国であるブラジルのリオデジャネイロのコパカバーナビーチには、常設のビーチサッカーゴールが連々と設置してあり、競技ビーチサッカーの利用はもちろん、11 人制サッカーの練習の一環としての活用、遊びとしてのサッカー利用がされています。2014 年にサッカーのワールドカップが開催されていたリオデジャネイロを訪れた際には、ビーチに居合わせた、様々な国から来た観光客、性別年齢関係なく、ボール一つに集まりだし、ビーチでサッカーを始める場面がありました。このような光景を、いつか、湘南の地で実現

したいと思っています。コロナ禍が明け、これらの動きも加速させていきますので、OB の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。



OB 会の皆様、今年度も多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

はじめに、今年度夏にご逝去されました鈴木中先生についてお話させていただきます。

私が 10 年前に湘南高校に赴任してから、中先生には様々な場面でいつも気にかけて頂き、湘南高校サッカー部をいつも温かく見守って下さいました。公式戦には必ずと言ってよいほどグラウンドに足を運んで下さり、試合後の現役選手へのお言葉はどれをとっても一つ一つ重く心に響くものばかりでした。私たちにとって中先生を到底一言では語ることはできませんが、中先生の存在は、湘南高校サッカー部にとって、選手のみならず指導者や保護者にとっても、かけがえのない存在でありました。“高校サッカーは高校 3 年間しかできない。勉強はいつでもできる。大学は諦めない限り決して逃げない。湘南高校サッカー部での 3 年間、毎日手を抜かず必死に練習しなさい。” 私が湘南に赴任後間もなく、中先生が現役生へ話して下さったお言葉で、今でも私の心に刻まれています。湘南高校のみならず、神奈川県、そして日本のサッカー界発展にご尽力されました鈴木中先生に湘南高校サッカー部を代表して心から御礼申し上げるとともに、ご冥福をお祈り致します。

現役生についてですが、新型コロナウイルス感染症の影響等で中断しておりました海外遠征がようやく再開となり、昨年度末に無事に催行出来ましたことをご報告させていただきます。再開にあたり、費用面の高騰や安全面、現地状況等様々な問題がありましたが、OB 会の皆様の多大なるご理解、ご支援により再開出来ましたこと、そして大きな事故もなく無事



チのもと、基礎基本の徹底を主に、チーム力を高めていきたいと思っています。OBの皆様におかれましても、時間がありましたら是非湘南高校のグラウンドに足を運んで頂き、現役選手と一緒にボールを蹴って頂ければ幸いです。

最後になりますが、サッカー部の海外遠征についても、サッカー部の活動についても引き続きOB会の皆様の温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。

終了出来ましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

3年生は、10月のU-18リーグ最終節を持ちまして引退となりました。9月に行われた選手権2次予選1回戦においては、三浦学苑相手に惜しくも負けてしまいましたが、沢山の応援ありがとうございました。当日は三浦学苑のホームグラウンドで行われたにも関わらず、保護者をはじめ、多くのOBの方々も応援に駆けつけて下さり、結果三浦学苑の応援よりも湘南の方が多かったのには選手もスタッフもびっくりでしたが、それが選手にはとても大きな力となりました。ありがとうございました。毎年思うことでもありますが、受験も控えている中3年生については昨年引き続き、最後まで誰一人やめることなくやり切ったことは非常に素晴らしく、すでに始まっている大学受験勉強やその後の人生に活かして欲しいと思います。

そして新チームについてですが、現在11月から始まる来春の関東大会2次予選の出場権をかけた新人戦の湘南地区予選が始まろうとしています。3年生が引退したことによって、2年前の県内ベスト8を経験した選手は現役選手には誰もいなくなりましたが、引き続きご指導して下さっている小柴外部コー

2023年度 スペイン遠征報告

顧問 高谷 哲二

日頃から温かいご支援と、ご助力をいただきありがとうございます。今回の海外遠征はコロナ禍の影響もあり、2018年度以来のこととなりました。OB会の皆様におかれましては、このような素晴らしい機会を設けていただいたこと、まずはお礼を申し上げます。昨今の社会情勢の影響もあり、海外遠征の実施自体が難しくなっている中、皆様の多大なるご助力とご尽力をいただき、遠征を行うことができたこと、重ねてお礼申し上げます。

今回の遠征では、現2・3年生の選手41名とマネージャー1名、指導者として監督の竹谷陸先生、小柴健司氏、並びに顧問の私が参加させていただきました。また、ドクターとして、前回の海外遠征に引き続き64回生OBの若木均ドクターに帯同していただきました。すでに夏の湘南セミナーで生徒からの報告会は行われたところですが、私からも教員か



らの目線で報告させていただきたいと思います。

今回の海外遠征は3月下旬、スペインのバスクおよびマドリッド周辺において、7泊9日の行程での実施となりました。スペインではビルバオに4日間、マドリッドに3日間滞在しました。滞在中はサッカーだけでなく、ビルバオでのビスカヤ橋やマドリッドへの移動中に訪れたブルゴス大聖堂、マドリッド近郊のトレドなどの世界遺産の見学や市街地の散策を通してヨーロッパの長い歴史に触れることができました。

滞在2日目には海外遠征の一つのトピックとなるガステルータ校との交流を行いました。数人ずつのグループに分かれての交流会では、お互いに慣れない英語を使い、お互いに気持ちを伝えよう、受け取ろうというコミュニケーションの根源的な態度を養う事ができました。またビルバオではラ・リーガ(スペインリーグ)2部のアラヴェス vs テネリフェの試合を観戦することもできました。ホームであるアラヴェスの観客席には家族連れなども多く見られ、チームを地域全体でサポートしている雰囲気を感じられました。応援しているチームに熱狂的に声を上げ、まるで自分自身が試合に出ているような一体感を感じましたし、時には審判の判定や選手の細かいプレーにも拍手が上がるなど、観客側のサッカーに対する理解が深い

と感じられる様子は生徒にとって新鮮な経験になったと思います。この他にも、ラ・リーガ1部の強豪、アスレティック・ビルバオのホームスタジアムであるサン・マメス競技場やマドリッドではレアル・マドリッドのホームスタジアムのサンチャゴ・ベルナベウの見学をしました。スタジアム内にはチームの歴史と功績を体験できるミュージアムがあり、ヨーロッパのサッカー文化の重さやチームの地域との繋がりの深さを体感することができたことは、生徒にとって興味深い経験になったと思います。

またビルバオでは、前回の海外遠征でお世話になった岡崎篤氏のコーチングスタッフ2名に実際にスペインで行っている指導をしていただきました。2チームに分かれ、オフェンスとディフェンスそれぞれの局面について、1日ずつ交代で指導をしていただきました。岡崎氏はスペインで育成年代の指導や監督として実績を重ねられている方です。

オフェンスではボールポゼッションの基本的なことについての指導でした。視野の取り方やボールの置き方、パスを出すときの目線、ボールホルダーへのサポートの仕方などを細かく指導して頂きました。特にサポートの仕方については、近くのサポートと遠くのサポート、前、横、後ろと複数の選択肢をボールホル

ダーに確保するポジショニングや、相手ディフェンスの寄せ方によって狙いを変えることや、いかにアドバンテージのあるうちに「探す」「見る」「使う」をできるかといった、試合につながる実践的な内容で指導していただきました。

ディフェンスではボールを奪うことを目的として、いかに主導権を持ったディフェンスに持ち込むことについて指導していただきました。ディフェンスの局面において日本では数的有利の状況を作ることを求められることが多いのですが、ヨーロッパではディフェンスは数的同数で対応することが一般的であり、その能力を求められることや、同数に持ち込んでいった後の積極的なアプローチ、アプローチがかかったときの二枚目のディフェンスの狙い、やられてはいけないスペースの判断などについて指導していただきました。この相手に対して数的同数で対応することや、積極的にボールを奪いに行くことについては普段から小柴コーチに指導していただいている内容と一致しており、小柴コーチの指導が目指しているところのレベルの高さを生徒たちも感じることはできたのではないかと思います。海外に行って、逆に普段のトレーニングの重要性が感じられる機会でした。

竹谷先生も小柴コーチも、私も含めてですが、改めてサッカーにおける原理原則や基本の大切さをもっと生徒に伝えることが大切であると確認することができました。様々な指導方法や考え方はありますが、サッカーの目的は点を取ることと点を取られないこと。そのためにどんな方法や技術があるか、そしてそれらをどう使うのか。改めてサッカーに向き合う貴重で素晴らしい機会になりました。また、岡崎氏本人から海外でサッカーに挑戦する事を決心した出来事や、スペインでサッカーに向きあってきた経験について話をさせていただく機会もありました。生徒の中には自分も将来挑戦したいと個人的に岡崎氏と話をしにきた生徒もいました。岡崎氏もこの生徒に対して真摯に話をしてくださいました。

トレーニングだけではなく地元クラブチームであるプレンツィア、そしてラ・リーガ2部のエイバルのユースとの試合も行いました。プレンツィアとの試合では、

初めてのヨーロッパ人との試合ということもあり、手足の長さの感覚や当たりの強さなどに苦戦しました。試合後には選手同士でピンチョス(スペインのおつまみ風軽食)をつまみながらの交歓会を行いました。この時、地元の方やチーム関係者が集まってサッカー談義に花を咲かせ、歓談をしている様子はサッカーが日常に深くに根付いている事を感じました。エイバルのユースチームとの対戦では後半の試合時間を短縮されるハプニングがありましたが、2-3と善戦しました。エイバルはサイズのとスピードのあるFWを使いゴールに対してシンプルに攻めてくるチームで、先制され追加点を取られましたが、スピードに慣れてきた湘南が得点を奪い、その後フリーキックでも追加点を取るなど、流れが湘南に傾いてきたところでタイムアップ。悔しい終わり方でしたが、ハイレベルの相手にも一歩も引かず、見応えのある試合ができました。

この遠征を通して、生徒たちはサッカー的にも人間的にも大きな成長を出来たように思います。遠征で学んだサッカーに対する原理原則や考え方、学んだことをこれからのサッカー人生の糧にしてくれればと思いました。最後になりますが、OB会の皆様に置かれましては、現役生ならびに私たち指導者にもこのような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。これからの指導において、少しでも生徒たちのために遠征で学んだことを伝えていけたらと思います。



今年度現役報告をさせていただきます、2年久保琢磨です。日頃より、OB会の皆様の温かいご支援とご協力により、日々充実した活動を送れること、大変感謝しております。その感謝の気持ちを忘れず、ご期待にお応えできるよう、仲間と共に日々精進していきたいと思っております。

10月15日K5リーグ大和南戦を持って3年生が

引退をしました。今までチームを支えてくれた3年生18名の引退によって、このチームには一昨年神奈川県ベスト8という経験をした選手がチームからはいなくなる事となりました。新チームではここまで引き継がれてきた蹴球部の伝統と神奈川県制覇の夢を繋ぎ、日々の生活から自分を見つめ、チーム一丸となって戦っていきます。

練習では小柴さん、竹谷先生の指導の下、「止める・蹴る」などの基礎基本を徹底し、日々練習に取り組んできました。また、湘南の強みである集中力と粘り強い守備を最大限活かせるよう週末にはサッカーコート周囲をタイムトライアル形式で5周走るトレーニングを行い個人の体力と精神力の向上に努めました。そして私達は新たな取り組みとして今年から、試合で出た課題をもとに練習メニューを選手個人が考え、練習に取り入れています。例えば決定力がチームとして課題となった時は練習メニューにシュートを積極的に取り入れるなどし、課題解決をしています。私達選手一人ひとりが課題と向き合いメニューを考えることで練習に対する態度や、コミュニケーション能力の向上なども図っています。それに加え、通常のボールトレーニングだけでなく食事を含めたコンディショニングや走り方とウェイトのトレーニングなど様々な視点からサッカーを競技として見つめ、選手が意識高くチームに最大限還元出来るように取り組んでいます。このような恵まれた環境で活動を行っている事をチームとしてストロングポイントにしつつ、この環境を当たり前だと思わず、支えてくださる方々に感謝して日々の活動で恩返しが出来よう取り組んでいきます。

また、今年の3月にはOB会の皆様に多大なるご支援、ご尽力いただき4年ぶりにスペインに海外遠征に行くことができました。スペインの現地チームとの試合や現地のコーチの指導から日本のサッカーとの違いと共通点を肌で感じる事が出来ました。現地の同級生との交流や試合観戦、観光を通して、日本と違った環境の中で様々な経験ができました。この貴重な経験をサッカーに活かすだけでなく今後の人生にも活かしていきたいと思っております。そし

て、5月にはコロナウイルスが遂に第五類感染症となり8月に選手権に向けて野沢温泉に合宿に行つて参りました。合宿では連動した守備にフォーカスした練習を多く行いました。選手間で情報共有をしてボールを奪いにいく事を練習できたことで、チームとしての共通認識を改めて確認することができ、チームワークを高める事ができました。コロナ禍では難しかった活動が徐々に再開され始め、コロナ前の状況に戻ることに感謝を忘れずに活動していきたいと思っております。

部員一同、竹谷先生をはじめとする先生方、コーチの方々の指導のもと、全国の舞台を目指し日々努力していきます。OBの皆様のご支援には大変感謝しております。これからも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。



2023年6月、私は一般社団法人神奈川県サッカー協会会長に選定された。鈴木中先生(中さんと表記する)に報告した日の夜、中さんは突然亡くなった。ご冥福をお祈りする。私の役割として、神奈川県サッカー協会での中さんの業績とそれに関わるエピソードをたどってみる。

1960年5月、26歳の中さんは湘南高校の香川幹一校長の要請で湘南高校に赴任。すぐに、日本代表の合宿が善行の県立体育センターで行われ、これに協力する。デッドマール・クラマー氏が代表の指導のため来日し、氏と出会う。素晴らしい巡り合わせだ。この年、湘南は国体、全国高校サッカー選手権大会の県代表となる。中さんはロケット・スタートを切った。

1964年には東京オリンピックが開催。神奈川県初の天然芝競技場が三ツ沢に完成、サッカー競技が開催された。サッカーが盛り上がる。翌1965年に湘南は関東大会で優勝。1968年のメキシコオリ

ピック銅メダルでサッカーブームが起こる中、中さんはしばらくの間、湘南高校サッカー部の指導に集中する時代となる。

1970年、国民体育大会が単独チーム参加から各県の選抜に変更された。神奈川県高校選抜の初代監督に36歳の中さんが就任する。そして、1972年には協会内に技術委員会が発足し、中さんが初代委員長に。技術委員会は主に十代の選手の育成、指導者育成、普及を担当する。中さんの仕事は、湘南高校サッカー部から神奈川県全体へと拡大していく。「県内のサッカー指導者を育成するための講習会が湘南高校を中心に連夜行われ」「県内サッカーのレベルアップをはかる基盤を固めた」(県サッカー協会50周年誌 p63)

中さんは、1971年国体選抜チームに異色の経歴を持つ相川亮一氏をコーチで迎える。相川氏はこの時期にFIFA公認アジアコーチング・スクールを受講、1970年代後半に読売サッカークラブ監督としてジョージ与那城・ラモス瑠偉らを擁して読売旋風を巻き起こす。相川さんは5年間コーチを務めた。国体選抜で相川さんの指導を受けた八木啓太氏(52



回)は「相川さんは世界への窓を開いた指導」をしたと語る。最初から、国体選抜チームに日本リーグ勢が関わる実績ができたため、現在でもJリーグと中学・高校がこの世代の育成では協力関係を維持している。2006年に少年男子がU16となって以降、神奈川県は6度の優勝を重ねた。1970年に、中さんがここまで見通したかどうかはわからないが、プロコーチの卵を起用するという革新的な行動が、現在につながることは間違いない。

1976年に全国高校サッカー選手権大会が首都圏開催となる。中さんは、神奈川県高等学校体育連盟サッカー専門部委員長・専門部長を1968年から1996年まで務めた(途中6年空白期間あり)。協会と高体連の仕事は重なる部分が多い。

1973年から開始された「神奈川県高校百校新

設計画」で高校が増え、教員も大量に必要なになる。現協会副会長の西塚祐一氏、元日本代表の小柴健司氏ら、国体選抜を経験した多くの選手が神奈川県に戻って、高校教員となりサッカーの指導に当たる。県外出身者のサッカー経験のある教員も高体連に取り込む。新任の教員をすぐに高体連サッカー専門部の委員とすることは当時でも異例のことであった。当時の県内高校のサッカー部顧問を務めた教員は全員が中さんの指導を受けたといって過言ではない。

テレビ神奈川(私は45年間勤務)は、全国高校サッカー選手権大会首都圏移転直後には県大会準決勝のテレビ中継を放送していた。それが、1980年前後から、予算がつかなくなって中断する。時期は不明であるが、中さんがtvkの営業と交渉し、高体連の予算で製作費を賄い、中継を復活させた。このことがあって、現在でも準決勝の中継は実施されている。

1989年、中さん54歳の時、湘南高校は23年ぶりに全国高校サッカー選手権大会で全国大会に出場し、ベスト16に進出。教え子の藤塚久雄氏(54回)が監督、自身は総監督であった。直後の4月に湘南高校を離任し、教頭、校長への道へ進む。

中さんは、1992年から2004年まで、サッカー協会の理事長を務める。41回の相羽克治氏は、協会の事務局長として中さんを手伝うことになる。翌年の1993年にはJリーグが始動し、1998年には日本代表が初めてのワールドカップに出場。サッカーがメジャースポーツへの道をたどる。協会には、組織の上で各委員会があったが、夫々が独自に活動していた。Jリーグが出来ることにより「利権」的なのが生じ混乱が危惧されたが、これを整理した。また、Jリーグの試合の運営を行う横浜、川崎、平塚各協会とは話し合いの場を多数持ち「日本サッカー協会の正式な下部組織は神奈川県サッカー協会である」の認識を徹底させた。中さん60歳の1996

年には教員を定年で退職し、以降はサッカー協会に専念する。

2002年日韓ワールドカップ開催、2年後の2004年、任意団体であった神奈川県サッカー協会は「社団法人」となる。県協会が大組織となっていくためには、法人化は必須の条件であった。中さんは社団法人化に心血を注ぐ。長年お世話になった政治家の先生方を顧問とし、名誉職を排した。筋肉質の組織とし、実務を行う法人としての実態を整えた。中さん69歳の2004年から1期2年間、社団法人神奈川県サッカー協会会長を務めて、後進に道を譲る。

2009年、中さんは74歳で社団法人神奈川県サッカー協会の名誉会長に就任。2013年、法律の改正に伴い、社団法人神奈川県サッカー協会は一般社団法人となる。この前ころから、協会が自前のグラウンドを持つ構想が具体化する。JFAの施設整備助成金が47都道府県協会に支給されることとなり、各協会が準備に入る。大半の県では、自治体と協同でグラウンド整備を進めた。首都圏は地価が高く、自治体が遊休地を持っていない事情があり、神奈川県では準備が難航した。

候補地として挙がったのが、横浜市泉区で相模鉄道が所有する土地であった。ここで、中さんが下準備で奔走する。相模鉄道の経営幹部の湘南OBと接触し、トップダウンでスピード感のある交渉を開始。同時に関連する道路の整備については、横浜市の幹部の湘南OBから調整を依頼して条件を整えた。こうして2014年、かもめパークが完成する。日本で唯一、民間の借地にグラウンドをつくることとなった。このグラウンドができて、協会が優先的に県選抜、トレセンなどの練習場所を確保できることとなった。これ

がその後の選手育成に直結する。2022年ワールドカップで、26人中、7人が神奈川県の育成選手で、ドイツ、スペインを破る金星をあげた。

中さんは教員の定年にあたり、38年間を振り返る文章を書いた。その中で指導の根幹は、できるまで「百万遍」練習することを強調する。「回りを見て、ボールにより、止めて蹴る」の「正しいサッカーができれば県の代表になれる」を湘南高校で実践した。中さんに出会い、私は大きな影響を受けた。サッカーの魅力を私なりに理解した。湘南でサッカーを教わったことの延長上で、サッカーの選手・指導者の実績がない「外部理事」である私が県サッカー協会会長という重責につかせていただくことになった。

鈴木 中先生との出会い～思い出

鈴木先生 一期生
37回生 牧村 英樹

昭和35年(2年)の終盤でキャプテンを先輩より仰せつかり翌36年3年生となった4月、鈴木先生がサッカー部の顧問として赴任され、早々に職員室に呼び出しを受け、そこにおられたのが日に焼けた



真っ黒で精悍な顔した鈴木先生との出会いでした。にこりともせず“お前がキャプテンか! 最近の戦績を言ってみろ!”と言われ、職員室とは縁のなかったその緊張感も加わってビビッたことが昨日の様に思い出されます。

この年、ドイツから日本サッカーの指導の為クラマーさんが来日され新しいサッカーのフォーメーションの在り方を筆頭に技術面そしてサッカーに対する取り組み姿勢など多くの事が変わって行く事となりますが、鈴木先生の私達への指導がまさしくクラマーさん流の先駆けのようでした。

従来 WM 方式ですとかなり各ポジションが固定化されポジションチェンジ等による流動性が欠けていた感が否めませんでした。鈴木先生のご指導によりフォーメーションに大きな変化が生まれました。長きに亘り全国大会等に出場することの無かった湘南サッカー部がその年、代表として秋田国体に出場し、翌年 1 月には西宮で開催された全国大会に出場を果たすことが短期間のうちに実現できたことは、鈴木先生のご指導の賜物以外の何物でも有りません。秋田では 1 月の寒い中一緒にナマハゲと写真を撮ったり、西宮の帰りには 3 年生だけ京都で一泊したりの良い思い出も沢山作ることが出来ました。

その後の鈴木先生の湘南高校サッカー部に対するご自身の人生を通じてのご奉仕には深く尊敬申し上げます。又、私自身も先生の人生観感・価値観からは多くの事を学ばせて頂きました。

有難うございました!! ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

中さんを偲んで

42回生 和田 正則

去る 10 月 17 日に私たち同期で「中さんを偲ぶ会」を行いました。その時、追悼の言葉を出席者からもらったので、それをまとめてみました。

まず、多く語られたのは、先生が持ち込んだ新し

い戦術のことでみながその斬新さや効果に驚かされたということでした。従来からの定番のフォーメーションだった WM 型をストッパーとスイーパーを置いた 4-2-4 型に変えて、オフサイドトラップで攻撃を分断した戦術は見事でした。その結果として、関東大会優勝、全国大会出場という輝かしい戦績を残しました。

私たちが入学したのは 1964 年の東京オリンピックの時、まだそれほどサッカーが普及していたわけではなく、多くが高校からボールを蹴るという状況でしたが、叱られることもなく、しっかり基礎的なところから教えてくれました。書店でサッカーの入門書を見つけた小川(旧姓及川)君が模範プレーの写真の選手は中さんと教えてくれて、そういう先生に教えてもらっているんだと肝に銘じていました。

当時、言われていたのはサッカーはボールコントロール、ボディバランス、ブレインの 3B だと。私たちは前の 2 つは劣っているので頭を使えとなった。それを新しいフォーメーションやオフサイドトラップにつなげたのは中さんの先を読む力の凄さだった。

ちょっと問題があって、卒業してから私たちは中さんと疎遠になったが、だいたい中さんを囲んで呑む機会を作った。それが「中さんと還暦を祝う会」につながり、古希も祝ってもらいましたが、もう中さんがいなくなって続けられなくなってとても寂しく感じています。

中さんとの思い出はたくさんあって、みな鮮明に覚えていて驚くのだが、最後にその中でも印象的だった沢地君の思い出を。

「中さんとの数多い思い出のひとつは 2014 年 W 杯ブラジルの観戦旅行です。サンパウロのホテルでの 10 連泊は同室で、毎晩、冷蔵庫のお酒を飲み干し、サッカーや家族のことなどを語りました。小生がそちらに逝ったら続きを、楽しみにしています。合掌。」

中さん追悼

59回生 近藤 卓

「トラップとインサイドキックの練習ばっかだな」中

さんの第一印象です。

「神奈川を獲る?そのために湘南に来ました!でも全国を獲る?それは無理っしょ」とも。

そんな我々59回生は、後輩も含め良い素材が揃っていたと思います。でもなんとなくフワフワしていて、まとめとしてはイマイチでした。

中さんはそんな私達を辛抱強く motivate し、関東大会出場まで導いてくれました。

初戦の相手は帝京。その年の選手権優勝チームです。関東大会予選で怪我人が続出し、ベストメンバーが組めない状態だったこともあってか、神奈川代表になったことに満足し「勝てるわけがない」という緩い雰囲気漂っているように感じていました。

試合前日、大気が不安定だったのか、宿舎にはピンポン玉ぐらいの雹が降り、それをバケツに入れ後輩たちが入っている風呂に投げ込み騒いでいるところに、監督会議を終えた中さんが。

「おまえら帝京に勝つ気があるのか!」と一喝。

「古沼監督に、明日は楽勝です、と言われて俺は頭に来てるんだ!」と。

アツイ監督だとは思っていましたが、これほどまでだったとは…。

すっかり遠足気分は消え、気合いを入れ直し翌日のゲームに臨みます。が、結果は0-6の惨敗。後のJリーガーたちにチンチンにやられてしまいました。

それでも試合後の中さんは、我々を叱責することなく、穏やかに淡々とお話をされていたように記憶しています。それが逆に堪えました。しっかり準備していれば、もう少しいい試合ができたんじゃないか、と。

それに続くインターハイ予選、選手権予選は共にベスト4で敗退。

個人的にも、チームとしても、中さんの期待を上回ることができなかった最後の一年でした。

チャンスは十分あったのに…。

蛇足ですが、選手権準優勝の清水東とも練習試合を組んでくださいました。こちら清水三羽ガラスと武田にチンチンにされ、0-6の惨敗でした。全国トップレベルを肌で感じられた貴重な経験です。

天国でも、しょうがねえヤツらばかりだったなあ、と

笑ってやってください。現役時代にもっと笑ってもらいたかった。後悔しかありません。

これからも日本のサッカー界を見守り続けてください。中さん、ありがとうございました。



中学では公式戦で1勝も出来ず、顧問は不在、同期は4人のみでまともな練習も出来なかった自分にとって、高校で期待したのは大好きなサッカーを仲間としたいだけ。そんなハードルの低い期待を良い意味でぶち壊してくれたのが中さんでした。

「貫禄のある先生」これが中さんの第一印象です。貫禄だけでなくサッカー界に多大な貢献をされた重鎮と知るのはもう少し後になりますが、1年生の頃から防護ネットをゴールに見立て、センターリングシュートの個人レッスンを何度も何度も受けたことは良い思い出です。中さんの口癖は「サッカーは蹴って止めて走る。これが完璧に出来れば全国にいける」。中さんの戯言を真に受けて単調な基本練習とダッシュを黙々と続けたメンバーは私だけではないと思います。練習は厳しかったですが充実感に満たされた毎日でした。

静岡遠征も中さんとの良い思い出です。昼間は厳しい表情しかみせない中さんが、夜のスナックで「うつむくなよ 振り向くなよー」とカラオケで熱唱する姿は高校生から見てもお茶目で人間味を感じました。

負けると終わりのノックアウトの公式戦では毎回小便をちびりそうになる位緊張感に苛まれましたが、中さんがいるだけで根拠のない自信が芽生え不安が和らいだのを今でも昨日のように思い出します。

振り返ると現役時代に中さんに褒められた記憶はありません。蹴ればシュートはバーを越え、止めると相手にボールを触られ、走っては相手に競り負ける。結局、中さんの教えを実践出来なかったので褒められる要素がなかったのですが…。そんな悔しさもあつ

て大学でもサッカーを続けました。OBとなり現役との交流試合で「楔に入ってキープするのとシュートが上手くなったなあ」とお褒めの言葉を頂いたことは今でも忘れられません。

社会人になって約30年。当時の中さんの年齢に近づきましたが、人間力も包容力も備えた偉人にはいつまで経っても近づけません。本当に偉大な先生でした。中さんは逝ってしまいましたが、僕ら一人一人の心の中で僕らの人生をこれからも支え続けて頂けると思います。またいつか湘南高校サッカー部が全国の切符を掴み取る日を天国の中さんとともに夢見て。

中先生へ

64回生 大道 まり子、久我 尚子、西松 美奈

中先生、私たちはあの頃の先生と同じ年代になりました。今になって高校生を見ると、「ああ、子供だなあ…」と感ずるので、あの頃の中先生も私たちのことを幼く感じていたことなのでしょうね。高校生の頃の

私たちにとって中先生は「とても偉い先生」であり、本来であれば気軽に話せるような方ではなかったのかもしれませんが、私たちにはいつもニコニコと優しく接してくれていました。

三人ともよく覚えているエピソードは体育教官室でのワープロ入力です。まだウィンドウズ95発売前のワープロの時代、私たちは放課後毎日のように体育教官室に通っては、ワープロ入力をするのが日課でした。中先生、藤塚先生に教えてもらいながらOBの名簿を整理して住所録を作成したり、宛名印刷をしたりすることが我々のミッションだったと記憶しています。中先生は体育教官室のいちばん奥の席で、ポチポチとキーボードを打っていましたよね。他の人たちにとって入りづらい体育教官室も、私たちは気軽に入ることができました。サッカー部のマネージャーに与えられた特権ですね。三ツ沢球状での場内アナウンスをさせていただいたこともいい思い出です。

今回この原稿の依頼を受けて、三人で中先生を偲びながら思い出を語り合いました。日々の生活に忙しく、気付けばしばらく会っていなかった私たちですが、中先生が繋いでくれたと感謝しております。ありがとうございました。どうぞ安らかに眠りください。

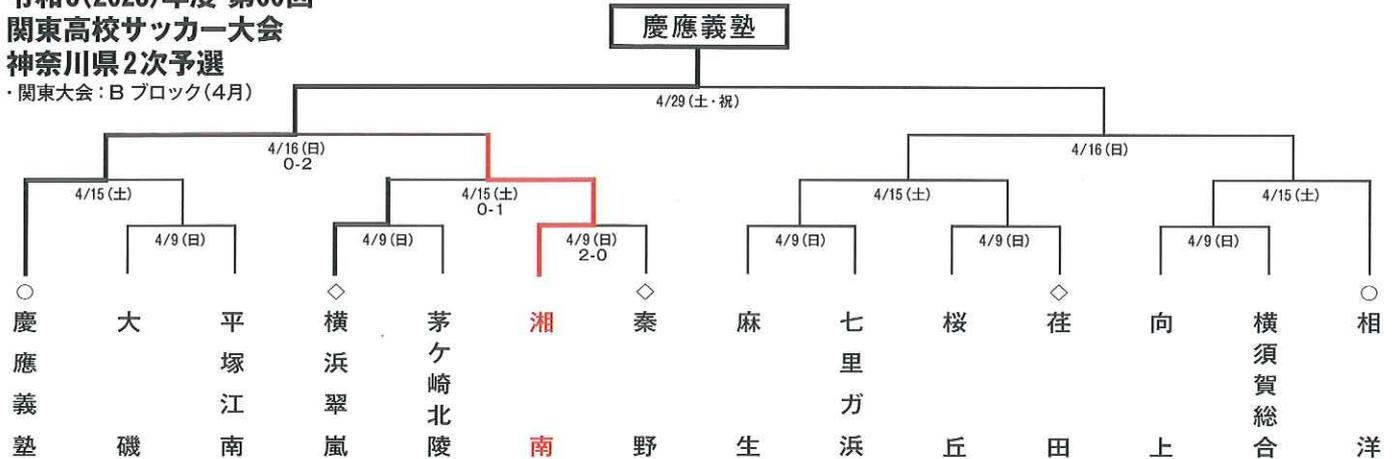


現役戦績報告

<総評>今年も3大会(関東・高校総体・選手権)とも行われました。毎年のことですが、「そこそこ良い」プレーは見られるものの、あと一歩が足りず壁を破れません。「気力と基本技術」を高めた姿・来年度に期待しましょう。

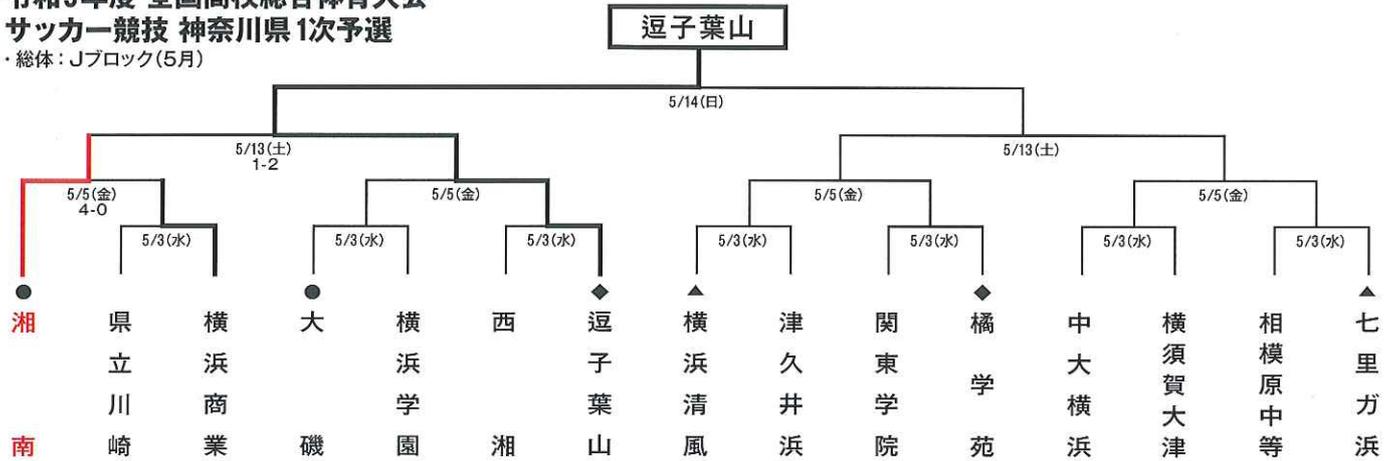
令和5(2023)年度 第66回 関東高校サッカー大会 神奈川県2次予選

・関東大会：Bブロック(4月)



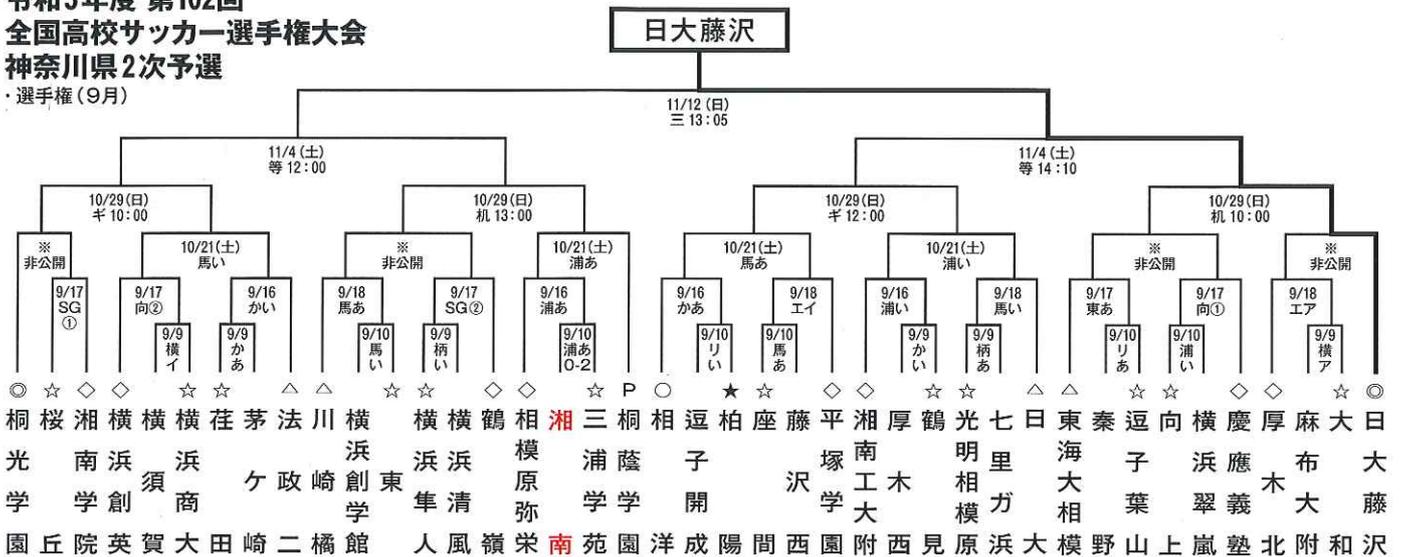
令和5年度 全国高校総合体育大会 サッカー競技 神奈川県1次予選

・総体：Jブロック(5月)



令和5年度 第102回 全国高校サッカー選手権大会 神奈川県2次予選

・選手権(9月)



令和6年度会費納入について

武藤 俊一 OB会事務局 53回生

令和5年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願ひいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人 1口 5,000円 ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座(横浜銀行、ゆうちょ銀行)も受け付けていますのでご利用下さい。尚、振り込みには卒業年を入れてくださるようお願いいたします。

- ・横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166 湘南高校サッカー一部OB会
- ・ゆうちょ銀行 湘南高校サッカー一部OB会
(ゆうちょ銀行口座からの振込) 記号 002109 番号 0037313
(他の銀行からの振込) 029店 当座預金 0037313

令和5年度会計報告・令和6年度予算案

収 入			支 出		
項 目	令和5年度	令和6年度	項 目	令和5年度	令和6年度
会費・寄付	1,502,000	1,370,000	現役寄付	500,000	500,000
繰越金	4,493,290	3,887,788	蹴球祭	72,576	90,000
利子	12	***	印刷費	216,100	200,000
合計	5,995,302	5,257,788	通信・事務費	205,088	200,000
※令和6年度収入見込み 185名(社会人145名, 学生40名) $10,000 \times 105 + 5,000 \times 40 + 3,000 \times 40$ $= 1,370,000$			スペイン遠征(積立)	850,000	450,000
			コーチ謝礼	250,000	250,000
			鈴木先生お別れ会供花	13,750	***
			繰越金	3,887,788	***
			予備費	***	3,567,788
			合計	5,995,302	5,257,788

令和5年度現役寄付・会計報告

収 入		支 出	
項 目	令和5年度	項 目	令和5年度
繰越金	0	遠征補助	0
寄付	500,000	トレーニング用品等	102,709
その他	0	筑波大附属定期戦	0
合計	500,000	会場・試合等	46,481
		参加費等	20,000
		海外遠征関連	20,000
		ボール	169,000
		コーチ費用	141,810
		合計	500,000

編集後記

藤塚 久雄 OB会事務局 54回生

この OB 会報から担当することになりました。前任の相羽 克治さん(41 回)とは 1984 年湘南高校着任以来のお付き合いです。鎌倉の安保小児科さんでの打ち合わせや、相羽さん宅での編集作業では、故山口 晴夫さん(45 回)とともに夜食にいただいたパンにジャムのおいしかったことを今も覚えています。

当初は現役部員に封筒の宛名書きや郵便振替票へのスタンプ押し、会報の封入などの作業をしてもらっていました。その後、皆さんの恐れるところの体育教官室に設置したサッカー協会の PC を活用して、諸文書作成をはじめ、現役マネージャーには住所録の入力をしてもらい宛名のタックシール印刷などの合理化をはかるとともに、春には桜めーる、夏にはかもめーるの葉書に春休み、夏休みの現役活動予定などをプリントゴッコで印刷してこまめな情報発信をこころがけました。

物心両面の現役活動支援が充実するのと比例して現役の活動実績も向上していったように思えます。会報などを通してOB会の組織や連絡網が整備されていくとともに、現役に対する寄付も充実したものになっていったことも昭和最後の高校選手権大会において神奈川県を制覇できたことにつながっていると感じています。この 全国大会出場は、昨年令和 5 年にご逝去された恩師鈴木 中先生の湘南での最後の年を花道で飾ったものともなりました。また、OB会の活動により、現役の海外スペイン遠征が支えられていることも特筆に値するといえましょう。

OB会活動を中心となって支え、試合ごとの現役活動報告を発信していただいた関 佳史さん(48 回)が神奈川県サッカー協会会長にご就任されました。かつて前述の鈴木先生も務められた役職でもあり、感慨深いものがあります。

OB会は、横山 雅行会長(45 回)のもと新体制となって継続してゆきますが、今後のバトンタッチについても着手しなければなりません。安定した運営のためには定期的な事務局の引継ぎルールが必要ではないでしょうか。この会報を受け取っている皆様の中から本会の運営にご参加をいただける方のご連絡をお待ちしています。皆さんでOB会を盛り上げ、現役への支援を充実させてゆきましょう。

令和6年蹴球祭・総会のご案内

～旧交を温め、現役生を激励しましょう～

期 日：令和6年1月7日(日)

場 所：グラウンド・清明会館

時 間：09:30～10:50 若手紅白戦(グラウンド)

09:30～11:00 幹事会(清明会館)

11:00～12:00 総会(清明会館)

12:15～12:30 現役との対面式(グラウンド)

12:30～13:30 食事・着替え・アップ

13:30～15:30 原則40歳以上 OB紅白戦(グラウンド)

※受付は総会終了後、12:00頃から開設し、会費納入と引き換えにお弁当をお配りします。